

住みやすいまち「山形」

㈱商工組合中央金庫山形支店長
山本 益己氏



東京大田区。私が生まれ育った蒲田から隣の大森にかけて4000近い町工場があり

ります。金属を素材に「削る」「磨く」「形成する」「めっきする」、そうした1つひとつの加工を専門に請け負っている世界でも特異な「達人たちが集まったモノづくりのまち」です。私の周りには町工場経営者の子弟が多く、高校時代は同級生の工場でNC旋盤を操作して金属を加工するといったアルバイトに精を出し、大学(慶応大理工学部)では管理工学を専攻して生産ラインの効率化の研究と工場での実習に取り組みました。

それが金融機関に就職? 畑違いと思われるでしょうが、ごく自然な選択でした。商工中金は戦前の1936(昭和11)年、南陽市赤湯出身で後の蔵相、

日本銀行総裁の結城豊太郎氏を初代理事長に、日本の生産力向上に大きな役割を果たしている中小企業のために設立されました。「モノづくり」「中小企業」の現場を小さいころから肌で知っていますので、全く違和感はありませんでした。

1988(昭和63)年の入庫後、町工場の多い兵庫県の尼崎支店、造船業のまち広島県福山市の福山支店に勤務したときには、工場のまち特有の風景に懐かしさを覚え、経営者の方に製品のこと、製造の過程、工場やまちの歴史など、本業そっちのけで根掘り葉掘り質問攻め、「また来たのか」と苦笑されました。

山形支店は10度目の勤務地です。昨年8月、引越し荷物を解いてまちに出て驚きました。何と若い人が多いのだろうか。山形駅前に支店があるのですから通学の高校生、大学生を見かけるとはいえ、それまで勤務したまちでは余り見なかった光景でした。そのことを話すと、「そんな…」と山形の方に怪訝(げげん)な顔をされます。しかし、山形大学、東北芸術工科大学、東北文教大学や、多くの高校が集中している山形市のような地方都市はそうないのです。それと歩道にごみひとつ落ちていない清潔さ。おいしい食べ物。通勤族の私にとってコンパクトで住みやすい安心安全なまちです。尼崎支店では阪神淡路大震災、福島支店では東日本大震災に遭遇しただけに、ことさらそう感じます。

昨年、商工中金は設立80周年を迎えました。これからも現場第一をモットーに、安定的な資金供給、海外進出のための現地情報の提供など商工会議所会員、県内の中小企業の皆様を応援させていただきます。80周年記念として山形市立図書館に木製書架2台と森鷗外の近代小説集全6巻(岩波書店)といった書籍を寄贈させていただきました。さまざまな面で山形が元気になるようお手伝いしたいと思っています。

(山形商工会議所議員)



今月の表紙 「十日町 山形まるごと館 紅の蔵」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」提供。今月号から上野氏(1960年、東京生まれ)が描くやまがたの様々な町並み風景を表紙で紹介していきます。